

3. 将来都市構造

将来都市構造は、本市の将来都市像を空間的・概念的に示すものであり、将来都市像の実現に向けての視点を明らかにするとともに、都市構造を構成する要素についての基本方針を示します。

3. 1. 将来都市構造設定の視点

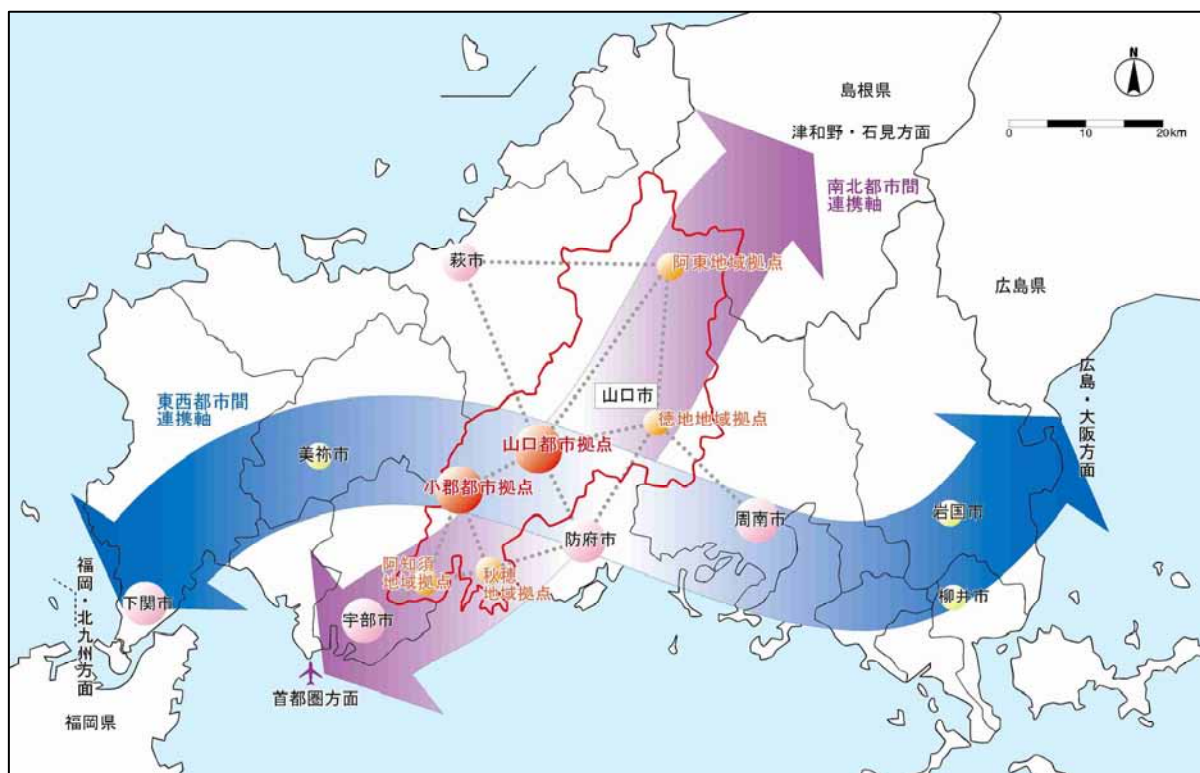
(1) 広域圏における山口市の役割

本市は、山口県の中央に位置し、県庁所在都市として、多様な高次都市機能が集積し、政治・経済・教育・文化などにおける中心的役割を担ってきました。

また、主要な幹線道路が東西南北に走り、県内の主要な都市に1時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった広域高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有しています。

一方で、求心力のある福岡、広島といった中枢都市圏の狭間において、今後地方分権の進展による道州制の導入や、人口減少下における、さらなる人材の流出や経済の低迷などが懸念され、住民生活や地域活力をどのように維持し、自立的発展を促していくかという課題を有しています。

こうしたことから、本市は、近隣市町と連携し、住民生活、経済活動を広域的に支える「広域経済・交流圏」の形成を図り、その交流・連携の中心都市「広域県央中核都市」として、牽引力や求心力を高める広域拠点性の向上や連携軸の強化を図っていくことが必要です。



(2) 拠点の配置と連携強化

1) 拠点の配置と都市機能の集積

広域に牽引力や求心力を発揮する都市づくりを行うためには、高度な都市活動を支える質の高い都市機能の集積を行い、その機能を中心として、人が住み訪れることによって生み出される交流と創造を促進する拠点が重要です。また、広域で多様な地域特性を有する本市には、旧来の各市町の地域生活の中心となる拠点や、地理的条件等を踏まえて配置された工業団地や大規模な公園など、特定の機能を持つ拠点が点在しています。

こうしたことから、適正な「拠点」の配置を将来都市構造に定め、これまで蓄積した既存の機能を生かしつつ、各拠点がその役割や特性に応じた潜在的かつ多様な「機能」を、より高めていくことで、広域的求心力の向上と、地域生活利便性の維持・向上を図り、市域全体でバランスのとれた都市機能の集積を促進していくことが必要です。

2) 都市機能の重層と展開

市域に点在する各拠点で既に集積している各種の機能は、それ自体が単体で、一定の機能を有してはいますが、今後、広域に広がるすべての拠点が同じ内容、同じレベルでの機能を有することは効率的ではないため、こうした広がりのある都市においては、それぞれの個性や特性に基づいた既存の機能をより強化・集積し、互いがその機能を享受しあうことで、自立した一つの圏域として成り立つ都市を構築することが必要となります。

また、こうした機能を重ね合わせることで、複合的に新たな価値が生まれることを「機能の展開」としてとらえ、さらなる都市活力向上の原動力として重視し、広域な市域においても機能の展開を図ることで互いが発展し、より利便性が高く、活力ある都市を構築することができます。

こうしたことから、様々な機能を持つ拠点同士の機能を重層させ、さらにその機能の展開を図るための「機能展開軸」を強化していくことが必要です。

(3) 環境共生型社会の構築に向けた計画的な土地利用

本市の土地利用は、都市計画区域と都市計画区域外に大別できますが、都市計画区域内にあっては既存の市街地のほか、その一体性から広大な山林や農地、海岸まで含めた区域となっています。こうした中、農地や山林の中に市街地の拡大が見られ、市街地としての境界線が明確ではありません。このような土地利用が許容されてきた過程において、本市の穏やかな市街地環境が形成されてきたともいえますが、今後、人口減少や少子高齢化の進展が予測される中、市街地の拡大や都市活動の多様化に伴う都市計画区域外を含めた自然環境の減少、地球規模での環境問題であるごみや二酸化炭素の排出などに伴う環境負荷の増大を抑制し、環境負荷が少なく、持続可能な都市構造が求められます。

こうしたことから、今後の本市の土地利用は、現況の土地利用状況を踏まえた上で、これまで培ってきた地域資源や都市環境を損なうことなく、自然と人々の都市活動が共生できるように暮らしやすく集約され、また、まとまりがありバランスのとれた計画的な土地利用を図っていく必要があります。

3. 2. 将来都市構造の設定

本市の将来都市構造は、将来都市像の実現に向けた都市づくりの課題及び基本目標を踏まえ、現在の土地利用や都市機能等の配置など、現況に配慮しながら、将来都市構造設定の視点に基づき、以下のように設定します。

将来都市構造

『重層的集約型環境共生都市』

地域、拠点の特性に応じた機能の「強化・集積」、「連携・補完」

重層集約

広域で多様な特性を有する本市においては、特性に応じた適正な「拠点」の配置を将来都市構造に定め、既存の機能や潜在的かつ多様な機能を「強化・集積」し、機能展開軸による拠点相互の「連携・補完」により、互いに機能を楽しむことで、自立した一つの圏域として成り立つ都市の構築を図ります。

地球にやさしい循環型、低炭素社会

省エネ・リサイクルなど、循環を基調とした社会構造への転換を図るとともに、多様な都市機能が効率的に集積する集約型都市構造の実現や、公共交通体系の充実、自然環境の保全により、二酸化炭素の排出を抑制した低炭素社会の構築を図ります。

自然環境との共生、都市と農山漁村の共生

環境共生

都市と農山漁村が共生したバランスのとれた土地利用を図るとともに、これまで培ってきた自然環境や地域資源などを損なうことなく、自然と人々の都市活動が共生できるような暮らしやすく集約された都市の構築を図ります。

新たな価値の創造
つながりのある社会の形成
安心・安全な都市の構築
活力ある都市の構築
持続可能な都市の構築
⋮

将来都市像の実現

将来都市構造

本市の将来都市構造は、

①土地利用 ②拠点 ③機能展開軸 の3つの要素で設定します。





① 『土地利用』

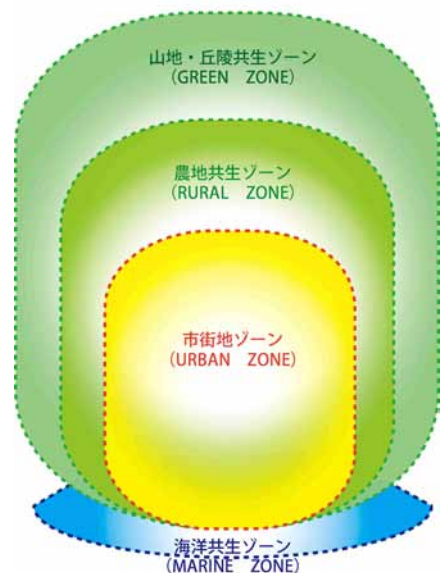
② 『拠点』

③ 『機能展開軸』

①市域を構成する基盤となる




『土地利用』

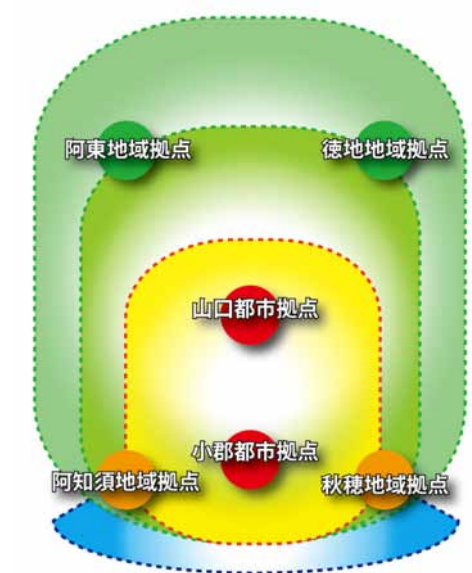
-  …市街地ゾーン
-  …農地共生ゾーン
-  …山地・丘陵共生ゾーン
-  …海洋共生ゾーン



②特性に応じた機能の強化、集積を図る




『拠点』

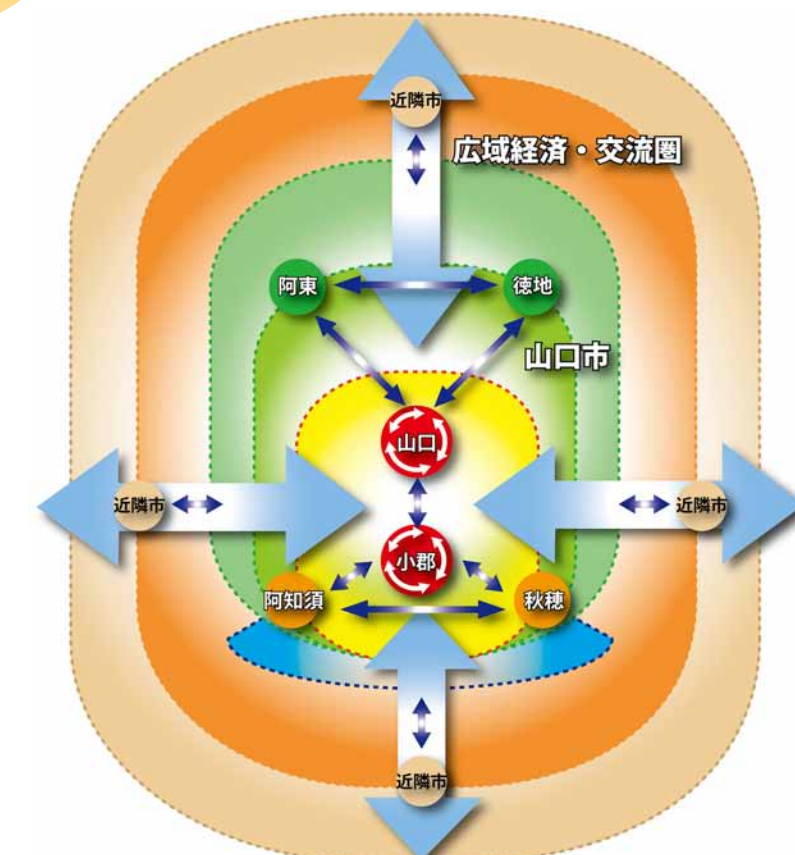
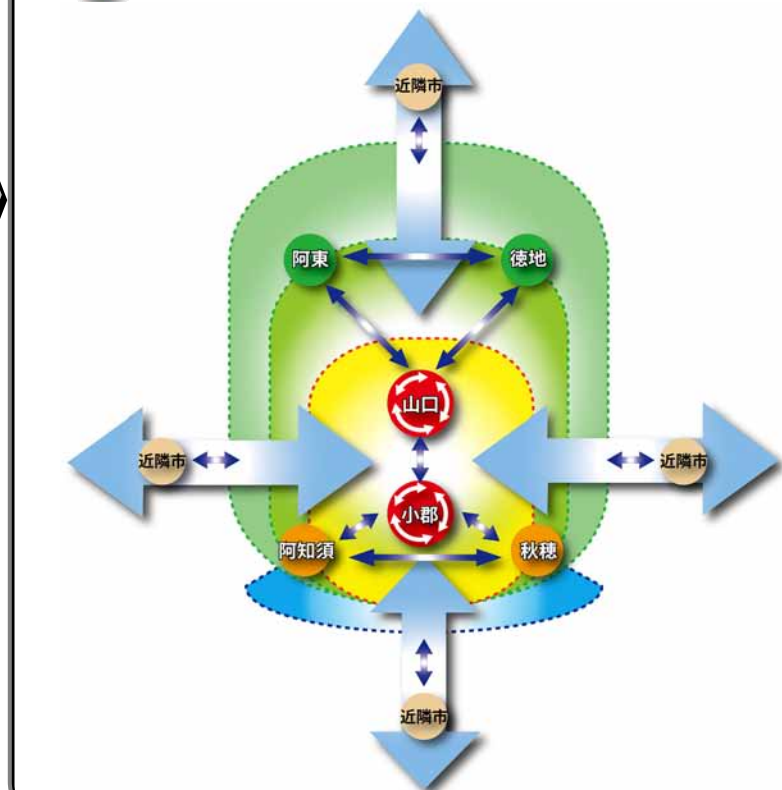
-  都市拠点 …山口、小郡
-  地域拠点(南部) …阿知須、秋穂
-  地域拠点(北部) …徳地、阿東



③拠点機能が重層し、展開する

『機能展開軸』

-  広域機能展開軸 …県外、県内他都市と連携
-  拠点機能展開軸 …隣接する他都市、市域内連携
-  都市内機能展開軸 …都市拠点の強化



将来都市構造概念図

3. 3. 将来都市構造の要素別方針

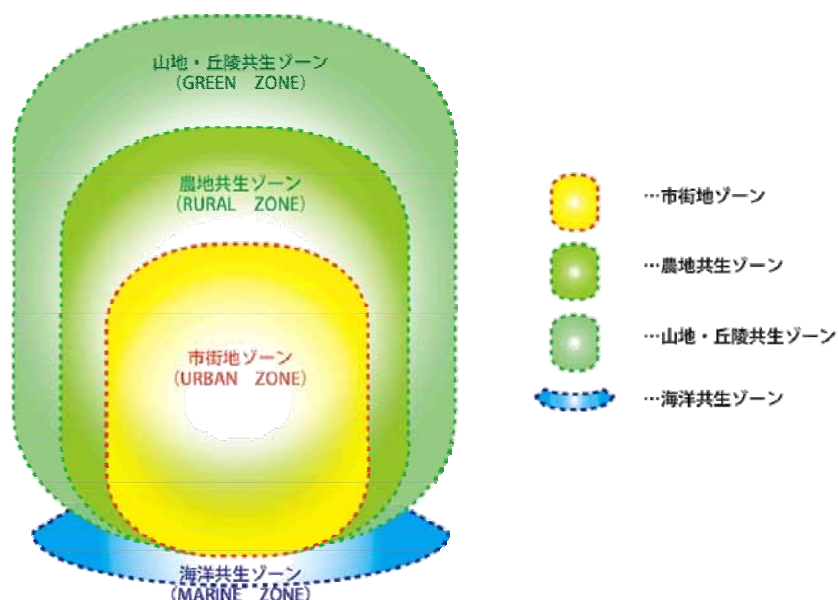
本市の将来都市構造を構成する「土地利用」「拠点」「機能展開軸」の3つの要素の設定と、要素ごとの基本的考え方を示します。

(1) 土地利用

市域を構成する基盤となる土地利用については、現況の土地利用状況を踏まえ、各地域の特性や特色を生かし、バランスがとれた土地利用を促進することで、自然環境や地球環境との共生を図りつつ、それぞれの役割にあった機能が発揮できる「ゾーン」の形成を目指します。

| ゾーン | ゾーン形成の方向性 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 市街地ゾーン (URBAN ZONE) | 市街地ゾーンは、既成市街地を中心としたエリアで、地域の特性に応じた都市機能の集約を図るとともに、適正な土地利用の誘導、基盤整備を推進し、利便性が高く、活力にあふれた都市活動が営まれる環境及び良好な居住環境の形成を図ります |
| 農地共生ゾーン (RURAL ZONE) | 農地共生ゾーンは、農業を主体とした土地利用が図られているエリアで、生産基盤と自然環境の保全を図るとともに、そこに暮らす人々の生活環境との調和・維持に配慮しつつ、営農環境が一体となって作り出す景観や地域資源を生かし、都市部や他の地域と有機的に連携を図り、地域活性化を促進します |
| 山地・丘陵共生ゾーン (GREEN ZONE) | 山地・丘陵共生ゾーンは、森林を中心としたエリアで、それらが持つ多面的の公益機能を重視し、優れた自然環境の保全に努めるとともに、営林等の産業環境との調和・維持に配慮しつつ、景観資源や森林セラピー、スポーツ・レクリエーションなどの機能を中心に利活用を図ります |
| 海洋共生ゾーン (MARINE ZONE) | 海洋共生ゾーンは、瀬戸内海沿岸の海岸線を中心としたエリアで、入り組んだ地形や遠浅の砂浜などからなる景観資源の保全に努めるとともに、漁業用地や漁村集落との調和・維持に配慮しつつ、海洋資源や景観資源等を生かしたレクリエーション機能を中心に利活用を図ります |

■ 将来都市構造における土地利用基本ゾーン概念図



(2) 拠点

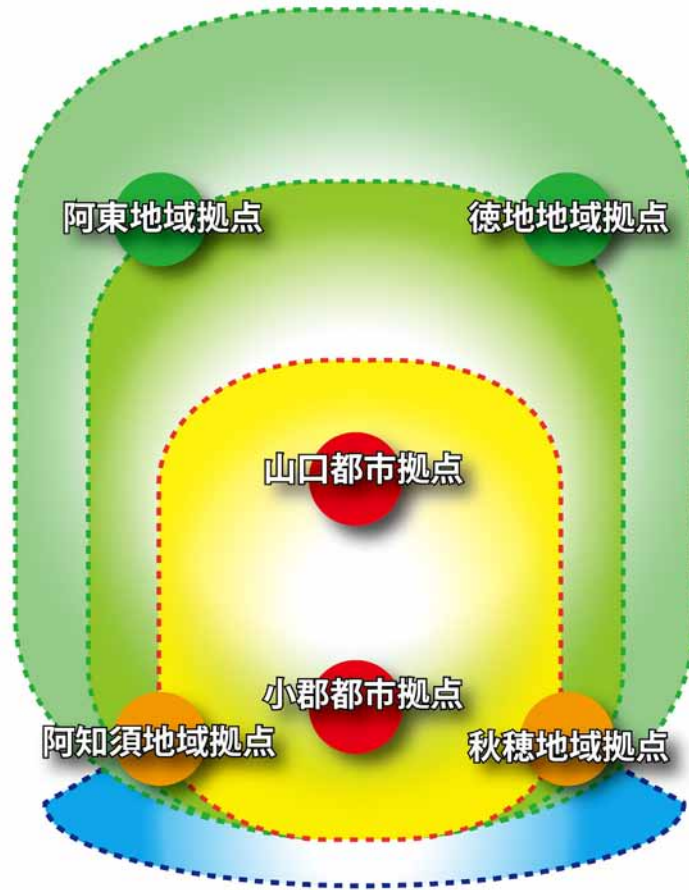
特性に応じた機能の強化、集積を図る拠点については、「多機能集約拠点」及び「特定機能集約拠点」を配置し、それぞれの拠点が役割や特性に応じた潜在的な「機能」を高め、それらが「交流・連携」する仕組みを構築し、互いの機能を重層しあうことで、新たな価値の創造による経済的發展を図ることのできる力強い都市を構築します。

1) 多機能集約拠点

広域に牽引力や求心力を発揮するとともに、広域な市域において、地域が持続的に発展していく都市づくりを行うため、旧市町の公共公益施設などが立地する中心部において、様々な機能が効率的に集積する「拠点」を配置します。

| 拠点分類 | | 拠点形成の方向性 | |
|---------|------|-----------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 多機能集約拠点 | 都市拠点 | 都市核を中心として、市内外に向けて広域的に求心力を発揮する魅力ある多様な高次都市機能を集積し、市民生活や都市的交流、経済活動を広域的に支えます | |
| | | 山口都市拠点 | 山口都市核を中心とした、行政、商業、教育、文化等の高次都市機能や貴重な歴史・文化資源などの集積が見られるエリアにおいて、既存の機能の活用・更新及びさらなる都市機能の集積・高度化を図り、多彩な文化・歴史に基づく交流・創造を促進し、本市の都市活力の原動力として中心的な役割を担う拠点を形成します |
| | | 小郡都市拠点 | 小郡都市核を中心とした、JR新山口駅周辺のエリアにおいて、広域交通結節点である特性を向上させ、山口県の広域交流の拠点としての機能の充実・強化を図るとともに、新たな産業交流機能の集積を促進し、山口都市拠点とともに、本市の都市活力を牽引する原動力として中心的な役割を担う拠点を形成します |
| | 地域拠点 | 地域ごとの拠点として、一定の都市機能を集積し、地域住民の交流や日常生活を支えるとともに、地域の特性・役割に応じた機能の強化を図り、地域活力を増進します | |
| | | 阿知須地域拠点 | JR阿知須駅や総合支所周辺の既成市街地を中心としたエリアにおいて、行政機能をはじめとした商業・業務や福祉・医療機能など、一定の都市機能の集積を図るとともに、隣接する宇部市との連携強化を図る拠点として形成を図ります |
| | | 秋穂地域拠点 | 秋穂地域の総合支所や地域交流センターなどが立地する既成市街地を中心としたエリアにおいて、日常生活サービス機能が集積し、周辺地域の中心を担う拠点として、また、地域資源の活用や交流、及び隣接する防府市との連携強化を図る拠点として形成を図ります |
| | | 徳地地域拠点 | 徳地地域の総合支所周辺の既成市街地を中心としたエリアにおいて、日常生活サービス機能が集積し、周辺地域の中心を担う拠点として、また、近隣の多様な自然環境を生かした交流の拠点としての形成を図ります |
| | | 阿東地域拠点 | 阿東地域の総合支所周辺の既成市街地を中心としたエリアにおいて、日常生活サービス機能が集積し、周辺地域の中心を担う拠点として、また、近隣の多様な自然環境を生かした交流の拠点としての形成を図ります |

■将来都市構造における拠点の配置概念図



- 都市拠点** …山口、小郡
- 地域拠点(南部)** …阿知須、秋穂
- 地域拠点(北部)** …徳地、阿東

2) 特定機能集約拠点

「多機能集約拠点」が地域の特性に応じつつ、多種多様な都市機能の集積を図ることで様々な経済活動や交流活動、市民生活全般に対するサービスの提供を行うのに対し、特化した特定の都市機能の強化、集積を図ることにより、特色ある都市機能の高度化を促進する拠点を「特定機能集約拠点」として位置づけます。

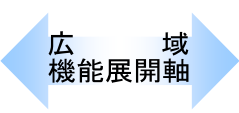
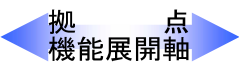

| 拠点の分類 | | 拠点形成の方向性 |
|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 特定機能集約拠点 |  <p>広域交通 拠点</p> | <p>主要な鉄道駅や高速自動車道のインターチェンジなどを広域交通拠点として位置づけ、交通結節機能や交流機能の強化等により、市内外の交流促進や公共交通利用の促進を図ります</p> <p>(JR新山口駅周辺、JR湯田温泉駅周辺、JR山口駅周辺、JR長門峡駅周辺、各インターチェンジ)</p> |
| |  <p>工業・物流 拠点</p> | <p>広域交通の利便性など地理的条件に優れた業務・工業基盤整備拠点到、高度な技術水準や柔軟な発想を経営資源とする研究開発型企業や流通業務活動などの業務集約を図り、雇用基盤の確保と産業活性化を図ります</p> <p>(山口テクノパーク、山口テクノ第2団地、鑄銭司団地、山口県流通センター、山口物流産業団地)</p> |
| |  <p>スポーツ レクリエーション 拠点</p> | <p>周辺の自然環境との調和を図りながら、広域的な市民の交流、余暇活動推進の場としての機能充足を図り、豊かな市民生活を支えます</p> <p>(山口きらら博記念公園周辺、維新百年記念公園、草山公園、やまぐちサッカー交流広場、長門峡県立自然公園周辺(長門峡、大原湖等))</p> |
| |  <p>学術研究 拠点</p> | <p>産学官の連携拠点として、大学等を中心に企業などの産業活動や地域社会との協働の推進により、次世代を担う人材育成や知的資源の集積を図ります</p> <p>(山口大学、山口県立大学、山口学芸大学、山口芸術短期大学、山口情報芸術センター)</p> |
| |  <p>温泉宿泊 拠点</p> | <p>利便性の高い街なかの温泉資源と、歴史ある宿泊施設を有するまとまりある地区として拠点性を高め、交流人口の増加及び地域経済活性化を図ります</p> <p>(湯田温泉地区)</p> |

(3) 機能展開軸

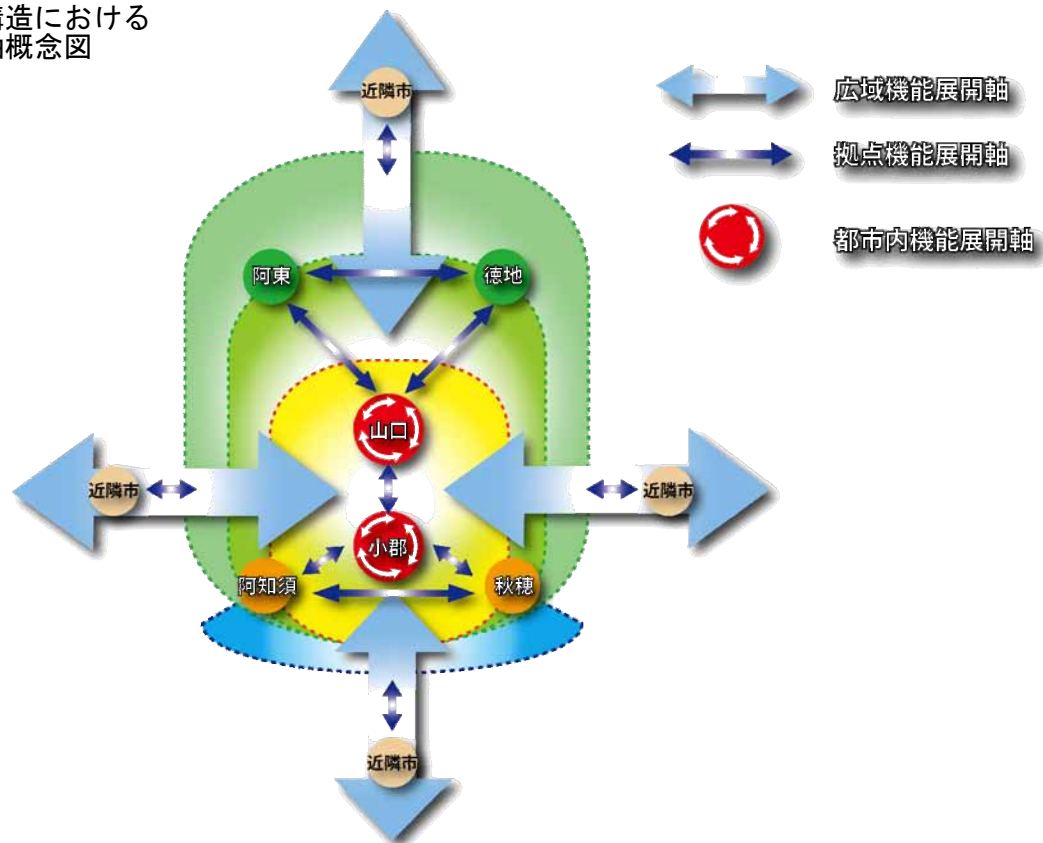
地域の特性や役割に応じて強化、集積した機能を、重層的に重ね合わせ連携・交流を図ること
 で新たに展開される複合的都市機能の創造のため、拠点間及び主要な拠点内を相互に連絡する
 ネットワークを形成する「機能展開軸」の形成を図ります。

機能展開軸は、機能の展開を図る上での連携・交流の手段として、人・もの・資源などが機能間
 での相互移動性の高さを発揮する必要があることから、特に、道路・鉄道網の充実を中心に形成を
 図ります。

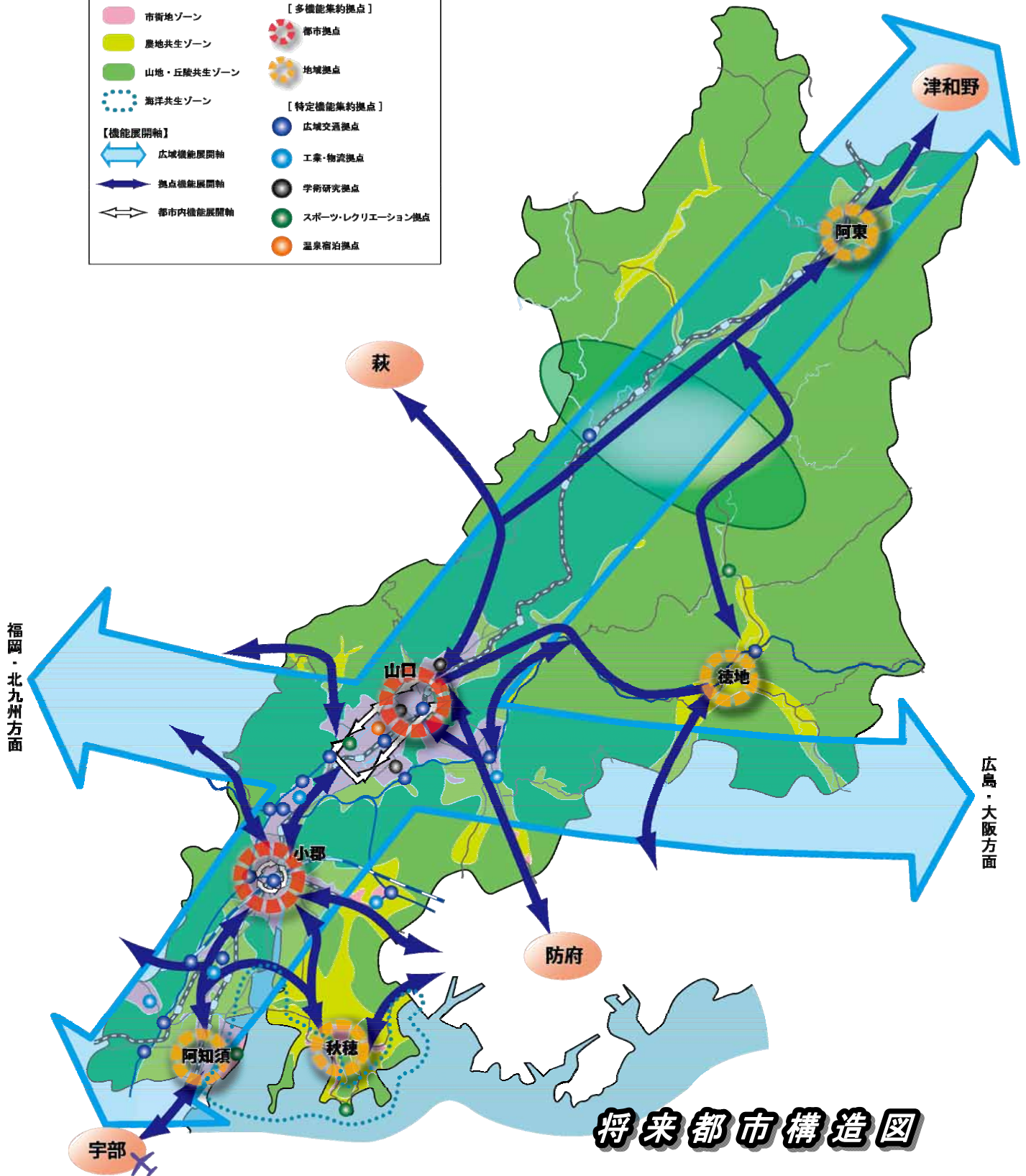
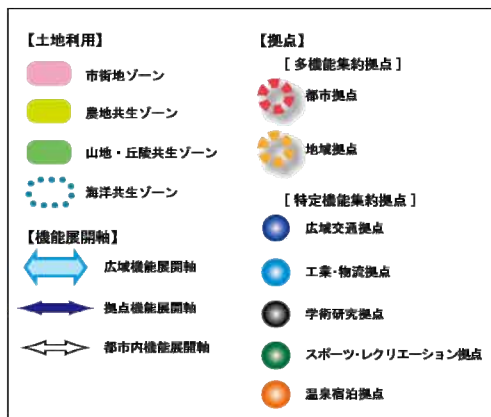
こうしたことから、本市が有する、道路と、鉄道及びその他の公共交通を相互に生かしたダブルト
 ラックによる力強い軸を構成し、効率的で環境に配慮した都市構造の実現を図ります。

| 機能展開軸の分類 | 機能展開軸の方向性 |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | 県外の中核都市や県内他都市との都市間連携及び市内の高速移動の広域連携軸 として、高速自動車道、新幹線、在来線、自動車専用道路の活用、強化を推進し、広 域的な都市機能や地域資源の交流による機能の展開を図ります |
|  | 隣接する他都市及び市域内での拠点間相互の連携軸として、主要幹線道路、在来 線の活用、強化を推進し、都市機能や地域資源の交流による機能の展開を図ります |
|  | 都市拠点を中心とした市街地の骨格形成及び各諸機能の連携軸として、都市内幹 線道路の活用、強化を推進し、各種機能の交流による機能の展開を図ります |

■ 将来都市構造における
機能展開軸概念図



将来都市構造を構成する3つの要素である「土地利用」、「拠点」、「機能展開軸」の設定と要素別の方針に基づいた、本市の「将来都市構造図」を以下に示します。



将来都市構造図